

令和3年度事業実施報告

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、9月中旬までは計画していた事業の延期や中止も多かったが、一方で新たな連携の取組みによって波及効果が期待できる事例も多かった。

活動を行うにあたっては、参加者の地域限定や人数制限、当日の検温、体調確認、チーム内の共有物を少なくし、参加者が密にならないようにするなど、感染防止に万全を期して実施した。

海岸漂着物、海洋プラスチックやマイクロプラスチックの問題に関心が高まるなか、最上川フォーラムの活動に対する問い合わせが増えており、SDGsの取組み事例としての活動を紹介してほしいとの要望等もいただいている。

メディアへの掲載や、他団体と連携して活動を実施したことに伴い、当フォーラムの活動内容を認知した人は増えていると考えられるが、当フォーラム自体の認知や活動全体に対する理解度は未だ不足している状況にある。

啓発を行う際には、事業単体としてではなく、他の事業等との関連で行ったことによる効果拡大が認められた。

- 例)
- ・企業のCSR活動や学校の修学旅行等に映画上映を組み合わせたコラボ事業の実施
 - ・映画鑑賞をとおして、小学生主体の自発的な取組みが生まれた
 - ・企業や学校が行うSDGs関連事業への協力の実施
 - ・海洋ごみ問題に関わる多様な団体との連携事業が実現

将来を担う世代の育成《教育・啓発》

1 第20回身近な川や水辺の健康診断

(1) 実施状況

①実施検討会

4月20日に開催（Web併用）、実施体制や調査マニュアル等を決定。

参集者：地域部会、大学、地域の環境保全活動グループ、国・県の行政機関

②調査期間

例年同様、世界環境デーに合わせ調査機関は原則として6月5日～13日とするが、コロナ禍の事情に鑑み安全に実施できるよう、10月22日まで延長した。

参加申込期間は5月21日を期限に設けるものの、期間中随時申し込みを受け付けた。

③主な調査内容

- ・透視度計（1m）による透視度調査
- ・パックテスト（簡易水質検査器材）による水質調査
6項目：pH、COD、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、リン酸性リン
※CODについては国土交通省と市民団体が連携して実施する「身近な水環境の全国一斉調査」の一環として実施。調査結果50地点分を提出。
- ・水辺環境（ゴミの状況、川の中や水辺の生きもののすみ場の様子など）の目視調査
- ・外来種の情報提供
- ・水生生物調査：山形県環境科学研究センターと連携し、希望グループが身近な川や水辺の健康診断との同時に実施。

- ④参加申込み 72団体、1,212名、205箇所
(前年度：68団体、760人、200箇所)

- ⑤実施結果 67団体、1,272名、200箇所

	置賜地区	村山地区	最上地区	庄内地区	計
実施団体数	14 (13)	29 (26)	10 (11)	14 (15)	67 (65)
調査箇所数	45 (35)	78 (77)	34 (40)	43 (40)	200 (192)
参加人数	249 (145)	529 (299)	247 (178)	247 (179)	1,272 (801)

※ () 内の数値は、令和2年度

年度別実施状況

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
団体数	124	83	108	116	110	100	85	80	95	101	97
人数	803	929	1060	1271	1181	1213	890	1055	1227	1028	978
調査 地点数	346	285	284	298	287	217	215	221	259	257	256

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
団体数	100	95	93	89	87	82	85	65
人数	934	1025	985	1213	1212	1056	987	801
調査 地点数	258	243	250	257	259	244	232	192

(2) 事業に対する支援

①パケットと比色カード（COD以外の5項目）の提供

国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所、酒田河川国道事務所、新庄河川事務所

②公定法調査協力

公益社団法人山形県水質保全協会、一般財団法人山形県理化学分析センター、株式会社テトラス、東北環境開発株式会社、株式会社東北サイエンス、株式会社理研分析センター

(3) 参加者への現地サポートについて

参加団体からの要請に応え、清流環境対策部会部会長、副部会長、事務局はじめ、会員専門機関や各地域部会長、地域活動団体等の協力により、学校を中心に、18団体に事前指導や現地等にて水質調査の指導や調査全般のサポートを実施した。今年度は大人数の学校でのサポートも増加した。水生生物調査と同時実施した学校では、山形県環境科学研究センターと連携してサポートを行った。

協力会員等)公益社団法人山形県水質保全協会、一般財団法人山形県理化学分析センター、千門町蛸の会、升形川に親しむ会、心のふるさと新井田川の会、株式会社理研分析センター

(4) 調査結果の集計

例年同様公益社団法人山形県水質保全協会の協力を得て、レーダーチャート等を作成、ホームページ上の報告書「笑顔を写す山形の川」に掲載。

概要版として全県のデータを1枚の河川地図上にまとめたものを作成し印刷。実施団体や学校等へ翌年度の募集案内に併せて配付する。(別添)

また、当フォーラムホームページ上に「水辺水質マップ」として掲載。

(5) 報告書「笑顔を写す山形の川」の作成

「身近な川や水辺の健康診断」、「美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン」の結果報告を作成し、当フォーラムホームページにデジタルブックとして掲載。

2 スポGOMI大会の開催 [別紙資料1を参照]

海岸漂着物問題対策の普及啓発の一環として、市町村や地域の団体等と連携して開催した。県内各地でのリアル開催のほか、内陸域と海岸部をWebで結び同時に開催することにより、内陸域の参加者に海ごみ問題を身近に感じてもらう機会を提供した。

(やまがた社会貢献基金を活用し、やまがたハイブリッド環境展でライブ配信)

新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度もアンケートは実施しなかった。

9月20日 海と日本スポGOMI全国大会にて、山形の取組みを発表した。

3 海岸漂着物やマイクロプラスチック問題等の啓発 [別紙資料2、3を参照]

(1) 海岸漂着物問題普及啓发出前講座

「身近な川や水辺の健康診断」等の実施にあわせ、小中学生等に対して出前講座を実施。

(2) 商業施設等での普及啓発の実施

映画上映を取り入れたことにより、テレビCM等での効果も大きく、サンプルの貸出しやワークショップへの依頼が増えた。

海岸漂着物問題の啓発パネルや庄内海岸を再現したジオラマ、海岸、河川ゴミ、マイクロプラスチックゴミの実物の展示や回収体験コーナーなども設け、見て触って海岸漂着物の現状を知ってもらい、海岸漂着物問題に関心を高めてもらうきっかけづくりを行った。

会場を屋外のマルシェにするなど、新型コロナウイルス感染症対策をとって実施した。

(3) 環境教育のためのゴミ標本や資材等の活用、整備

「マイクロプラスチックを調べてみよう」の動画3本を製作しホームページで紹介している。夏休みの自由研究などで子供たちが活用できるような動画となっている。

展示パネル、ゴミ標本や資材を追加製作した。海と川のゴミの比較ができるマップ、標本も製作。マップはホームページ上でも公開している。啓発資材の貸出しを行うとともに、出張講座やワークショップの開催、オンラインでの説明を行った。

スポGOMI大会やクリーンアップ等の実施に際し、環境教育プログラムを提案し組み合わせ実施した。

(4) SNSの活用

川と海のゴミの標本マップの作成、スポGOMI大会の告知など、参加者の世代に合わせたSNSでの発信を行った。県防災くらし安心部、環境エネルギー部、庄内総合支庁、ドリーム里山プロジェクト等よりSNSで告知の協力をいただいた。

4 企業や団体との連携

(1) スポGOMI大会等への参加、参画をいただいた企業及び団体は以下のとおり。

- ・ ゆらまちっく戦略会議、(株)安藤・間、三郷堰土地改良区、NPO法人公益のふるさと創り鶴岡、新庄市体育協会、市町村教育委員会、株式会社JTB、JT、(株)ダイナムなど(新型コロナウイルス感染拡大により一部中止)

- ・ 山形県青年の家「夏の体験ボランティア」企画

ゴミ拾いはスポーツだサンセット・サンライズ由良大会(6月19日・20日)、山形の海洋ごみを考える日(11月27日)へのボランティア募集

- (2) 下記の企業等が行うSDGs関連のコラボ事業に参加または協力した。
- ・山形新聞社 SDGs フェスタ山形大学ブースへの出展、ワークショップ開催（9月23日）、トヨタソーシャルフェス（10月3日）の共催
 - ・モンテディオ山形 SDGs ブースへの協力、スポGOMI大会開催（11月14日）
 - ・株式会社JTB いきいきプロジェクトへの協力（JTB）
 - ・パレスグランデール、山形大学附属小学校など SDGs 研修への協力

5 美しい山形・最上川サポーター（仮称）の創設に向けて

(1) 趣旨

若い世代を中心に、最上川フォーラムが推進する『豊かな自然環境と文化が息づく魅力的な山形づくり』に参加する方々をサポーターとして確保し、活動のすそ野を広げるとともに、将来にわたって継続的に育成していく。

(2) 制度設計の継続

簡易な登録アプリの開発を想定して検討してきたが、開発経費の財源、セキュリティ対策、既存SNSの活用可能性など解決すべき課題に加え、今般取りまとめた「新しい活動指針（案）」において、会員区分等の見直しも想定していることから、来年度において包括的の制度設計の検討を継続していくこととする。

地域の環境保全と安心づくり《課題解決》

1 美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン

画像提供協力を呼びかけ、回収した川と海のごみの比較マップをWebで公開。（やまがた社会貢献基金）

(1) 実施状況 3月末まで通年実施

① 41グループ 683名参加

	置賜地区	村山地区	最上地区	庄内地区	計
参加 団体数	6 (8)	21 (23)	3 (14)	11 (8)	41 (53)
参加人数	188 (94)	196 (286)	61 (269)	238 (94)	683 (743)

※（ ）内の数値は、令和2年度

年度別参加状況

	H14	H15	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
団体数	6	17	21	58	49	50	50	49	55	65
人数	—	—	—	1839	1019	1000	1700	973	1347	1523

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
団体数	59	53	53	53	49	65	52	53
人数	1843	1510	1348	2246	1517	1485	1130	743

- ② 実施期間 新型コロナウイルス感染症拡大のため、期間を延長、通年参加可能とし実施。
 ③ データカード作成にご協力いただいたグループの活動経費の一部を支援。一律3千円

- (2) イベントとのコラボレーションを継続して実施した。スポGOMI大会や海岸漂着物問題普及啓発事業との併催を推進した。〔別紙資料1、2を参照〕
- (3) 最上川上流におけるクリーンアップ活動の実施
昨年度に続き、山形河川国道事務所からの委託事業として、長井市、白鷹町、朝日町、寒河江市、天童市、河北町内の8か所において清掃活動を実施し、ゴミ数をカウントしてグラフ化した。(10月18日、25日、26日)。
- (4) クリーンアップ全国事務局、全国川ごみネットワーク主催の「全国水辺のごみ調査」へデータを提供する。
- (5) 結果報告は、当フォーラムホームページ上に公開。

2 散乱ごみの発生抑制対策の推進

第3次山形県循環型社会形成推進計画に掲げられている、「海岸漂着物等の回収及び発生抑制の促進」に賛同し、「陸域部における海洋ごみの発生抑制対策の効果を検証するため、河川等における散乱ごみの実態を把握するモニタリング調査」を行う取組みに参加している。

- (1) 山形県海岸漂着物問題推進協議会への参画
令和3年度山形県海岸漂着物対策推進協議会総会(6月4日、12月8日)に出席。
- (2) 海と日本プロジェクト
陸域の河川における散乱ごみのモニタリング体制構築等に向けた検討会や現地視察へ参加。(特定非営利活動法人パートナーシップオフィス受託事業)

3 他団体や企業との連携

- (1) 「海と日本プロジェクト」との連携
映画「マイクロプラスチック・ストーリー」の上映に際し、庄内海岸の活動動画紹介、当フォーラムのスポGOMIやワークショップなど活動の取材や動画製作、春秋のゴミゼロデーに合わせた啓発事業への協力、モンテディオ山形ホームゲームでの啓発、スポGOMI大会への賞品提供など、多数の連携が行われた。
5月26日 海と日本プロジェクト in 山形実行委員会、ドリームやまがた里山プロジェクト総会に出席。
映画「マイクロプラスチック・ストーリー ～ぼくらが作る2050年～」を上映する会を立ち上げ、事務局として活動(山形国際ドキュメンタリー映画祭、フォーラム山形、海と日本プロジェクトと連携)、フォーラム山形にて上映時に海岸漂着物標本、啓発資料を展示した。テレビCMスポットで放送された。
10月3日 トヨタソーシャルフェス(オンライン)の共催、海岸漂着物問題の啓発を実施した。
11月27日 山形の海洋ごみを考える日(海と日本プロジェクト in 山形、NPO法人公益のふるさと創り鶴岡、NPO法人パートナーシップオフィス、ゆらまちつく戦略会議と連携、県庄内総合支庁等が協力)を開催。

- (2) 企業等との連携(再掲)
下記の企業等が行うSDGs関連のコラボ事業に参加または協力した。
- ・山形新聞社 SDGsフェスタ山形大学ブースへの出展、ワークショップ開催(9月23日)、トヨタソーシャルフェス(10月3日)の共催
 - ・モンテディオ山形 SDGsブースへの協力、スポGOMI大会開催(11月14日)
 - ・株式会社JTB いきいきプロジェクトへの協力(JTB)
 - ・パレスグランデール、山形大学附属小学校など SDGs研修への協力

4 広報啓発

- (1) やまがたハイブリッド環境展への出展等の機会を活用し、ゴミ発生源対策や令和2年度に作成した湧水利活用の動画等を中心として、清流環境対策部会事業や当フォーラムの活動の広報、環境保全の啓発を行った。
（10月30日～1月31日「令和3年やまがたハイブリッド環境展」）
- (2) 映画「マイクロプラスチック・ストーリー ～ぼくらが作る2050年～」を上映する会事務局としての活動（再掲）
- (3) 海と日本プロジェクト in やまがたとの連携（再掲）
- (4) 県庁ホールにおいて、県循環型社会推進課の海岸漂着物問題啓発展示、県水大気環境課の湧水展示に協力。県立図書館において県循環型社会推進課の「図書館からSDGs」の展示に協力。
- (5) その他の広報啓発活動
公民館、小学校等でのSDGs関連講座、出前授業等を開催。（別紙資料のとおり）
10月16日 鶴岡鶴陵ライオンズクラブ例会において、「最上川フォーラムでSDGs」と題し講演を行った。（菅原幸司 清流・環境対策部会長）
11月6日 東北水環境学会東北支部セミナーにおいて、「美しい山形・最上川フォーラムの取組み」と題して講演を行った。（大泉茂 清流・環境対策部会副部会長）
3月13日 小学生向けワークショップを開催。マイクロプラスチックの動画上映。
3月24日 山形北ロータリークラブ例会において、最上川フォーラムの活動を紹介する講演を実施した。（斎藤貴 事務局長）
YouTubeチャンネルを活用した動画配信、SNSを活用した情報発信を増やした。
7月2日～17日 最上川上流水の巡回展（「雨展」、山形県生涯学習センター遊学館）の運営補助（国土交通省委託）

環境や文化を地域活性化に活かす《活用》

1 最上川夢の桜街道づくり

- (1) 全市町村及び継続団体に対し、桜の維持管理等の要望調査を行い、樹木医を派遣した。
4月15日 天童市石鳥居の桜診断（天童市教育委員会）
5月16日 金山町風の丘公園 有屋小学校閉校記念行事に伴う桜植樹土壌診断（金山町立有屋小学校）
9月18日 金山町風の丘公園 桜の植樹
- (2) 桜守育成のための研修会「桜守養成講座」、地域資源としての桜を活かすための研修会等を地域部会と連携して開催。（緑化推進事業助成金活用）
11月6日 鶴岡市由良地区 講師：造園専門家 土田一彦氏 参加者 32名
11月7日 金山町有屋地区交流センター 参加者 15名
11月13日 鶴岡市ケヤキの森 講師：樹木医 砂山隆司氏 参加者 6名
- (3) 東日本大震災復興支援プロジェクト「東北・夢の桜街道～桜の札所・八十八ヶ所巡り」
「東北・夢の桜街道推進協議会」10年プロジェクトが終了。まとめとして、「東北・夢の桜街道運動の10年間の軌跡と展望」が発刊された。
- (4) 公益財団法人日本さくらの会 令和3年度桜功労者表彰
発足当時から実施してきた桜の保全活動、桜を通じた地域活性化事業について評価されたもの。

2 桜や水辺の写真を活用した情報発信

全市町村に展示箇所の照会を行い、これまでになく長期間に多くの場所で実施することができた。また、県立図書館等、利用者の多い場所での展示依頼もあり協力した。

水辺の写真については、桜のように季節が限定されず、通年展示が可能なため、今後は桜以外の写真についても発信に心がけ、認知度向上に活用していく。

- (1) これまでの写真コンテスト入賞作品の貸出しを希望者に対して随時行う。

6月12日～8月1日：飯豊町源流の森（やまがた森林と緑の推進機構との連携）

- (2) 「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」（桜をテーマとした写真、ひょうたんとLEDを使った灯りを展示）

全市町村に展示箇所の照会を行い、令和3年3月下旬から市町村の協力を得て巡回。

「東北・夢の桜街道～桜の札所八十八ヵ所巡り」のPR、桜の維持管理事業の紹介も兼ねた展示を行った。

3月22日～4月2日：上山市役所1階ロビー

4月5日～16日：朝日町エコミュージアムコアセンター創遊館ギャラリー

4月17日～22日：大石田町民交流センター「虹のプラザ」

4月26日～30日：山形市役所エントランスホール

5月1日～5日：上山城郷土資料館

5月6日～14日：東根市役所1階ロビー、壽屋寿香蔵

5月17日～28日：川西町役場新庁舎ロビー

5月29日～6月11日：白鷹町中央公民館町民ラウンジ

4月12日～5月9日：県立図書館「サクラ咲く図書館」に桜の写真展示協力。

令和4年3月22日～4月1日：河北町役場1階ロビー

- (3) 山形県立図書館ロビーでの令和4年壁面展示に協力し写真を提供。

3 湧水活用事業

「里の名水・やまがた百選」・「環境省選定」湧水を地域の環境資産として着目し、プロモーション動画とポストカード等を製作し、SNS等で発信することにより、湧水の活用促進を図るとともに、周辺環境も含めた豊かな自然を保全し、地域の活性化につながる活動を展開する。

県水大気環境課の湧水展示に協力。イオン等での展示の際にポストカード等を活用した。

- (1) 湧水の魅力を多くの人々に知ってもらうため、動画作成による情報発信と現地を訪ねる参加型イベントを計画したが、令和2年豪雨水害被害道路復旧工事のため、現地を訪ねる参加型イベントは中止とした。

- (2) 天童市の湧水をテーマとした動画「WAKIMIZU・SIDE・STORY」、ポストカードを製作。

- (3) 各種イベント会場でのプロモーション、アンケートによるリサーチを実施した。結果をフィードバックして地域活性化策の検討に活用する。

4 地域おこしの紙芝居製作

- (1) 過年度に製作した海岸漂着物紙芝居の上演や貸出しについての情報発信を積極的に行うとともに、動画や英語版を製作し、広く活用を図った。

- (2) 2019年度からの継続した取組みとして、村山・置賜地域部会の連携により、最上川にまつわる紙芝居を製作する。最上川229ネットワーク（白鷹町）が大石田町をテーマとした紙芝居を製作中。

- (3) 令和2年度製作の紙芝居「if…あなたならどうする？」が令和3年度山形県視聴覚教材コンクールに入賞した。

地域部会

◇置賜地域部会

- (1) 村山地域部会と連携した紙芝居づくり (4 地域おこしの紙芝居作成 (2) 参照)
- (2) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地サポート等の実施
長井市立長井小学校
- (3) 「スポGOMI大会」への協力
5月30日 白鷹町
- (4) 環境イベントにおけるスタッフとして協力
10月9日 「再エネフェス2021」小国町ショッピングセンターアスモ
- (5) 最上川上流におけるクリーンアップ活動に参加協力
10月18日 白鷹町、長井市
- (6) 映画「マイクロプラスチック・ストーリー」上映と海岸漂着物問題啓発展示、回収体験
12月12日 白鷹町ワンデーフェス

◇村山地域部会

- (1) 「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」開催 (2 桜や水辺の写真を活用した情報発信参照)
- (2) 桜の維持管理活動への協力
4月15日 天童市石鳥居の桜診断 (天童市教育委員会)
- (3) 「スポGOMI大会」への協力
10月23日山形市、11月14日天童市
- (4) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施
山形市立鈴川小学校、東海大学山形高等学校、尾花沢市立尾花沢中学校、
南陽市立宮内中学校
- (5) 最上川上流におけるクリーンアップ活動に参加協力
10月25日 寒河江市、河北町
- (6) 置賜地域部会と連携した紙芝居づくり (4 地域おこしの紙芝居作成 (2) 参照)

◇最上地域部会

- (1) 「もがみの湧水調査会」
山形県で実施している「里の名水山形百選」への応募の働きかけ
- (2) 「スポGOMI大会」への協力
4月29日新庄市、5月16日金山町遊学の森、舟形町教育委員会、新庄市ほこてんプロジェクトほか
- (3) 桜を守り育てる研修会開催
11月7日 金山町有屋地区交流センター
- (4) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地サポート等の実施
新庄市立新庄小学校、新庄市立日新小学校、新庄市立升形小学校

◇庄内地域部会

- (1) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地サポート等の実施
酒田市立平田小学校
- (2) 「スポGOMI大会」の開催
6月サンライズ・サンセット由良大会
10月 鶴岡市

- (3) 「桜の育成維持管理研修会」の開催
 - 1 1月6日 鶴岡市由良地区
 - 1 1月13日 鶴岡市ケヤキの森
- (4) 「山形の海洋ごみを考える日」
 - 1 1月27日 鶴岡市まちなかキネマで開催
- (5) 「内川リバーサイドフォーラム」を3月19日開催

全 体

1 将来を見据えた活動の指針づくり

(1) 趣旨

設立20周年を迎える最上川フォーラムの活動について、社会・経済・環境の変化を踏まえつつ現状を見つめ直し、これまでの成果と課題を共通認識として、今後数十年の将来を見据えた活動の推進方向を検討する。

(2) 検討の実施状況

運営委員会内に、正副の会長及び部会長、地域部会長ほかで構成する検討委員会を設置、5月31日、11月17日、3月16日に開催し、新しい活動指針（案）を取りまとめた。 [別紙「新しい活動指針（案）」を参照]

今後、令和4年度運営委員会及び通常総会における協議を経て承認を得たい。

2 会員拡大の取組み

(1) 個人会員の募集

例年同様、県内金融機関並びに県、市町村の協力を得て、会員募集キャンペーンを実施した。(会員の状況については報告資料のとおり)

(2) 法人会員の募集

- ① 新型コロナウイルス感染症感染対策を踏まえ、商工団体や法人団体等に対する訪問及びプレゼンテーション等については実施を見合わせてきた。
- ② 10月に、未加入の主要企業100社余りを抽出し、経営者あてに入会案内を送付。反応のあった企業に対して詳細の説明及び勧誘を行う。
- ③ 一部企業からコラボ事業の実施について相談を受けているほか、「広報啓発(P5)」に記載のとおり、ライオンズクラブから講演を依頼されるなど、関心を示す動きもみられることから、今後の勧誘につなげていく。
- ④ 法人及び団体の会員に対し、会費増額（一口3千円を1万円以上に増額）の要請を行ったところ、3社から追加の増額をいただいた。

(3) 勧誘ツールの整備

活動内容をPRするためのパワーポイント資料、勧誘チラシを改訂、SDGsの取組みを紹介するチラシを作成し、会員募集キャンペーンや各種イベント等で配布している。

3 設立20周年事業：「第26回水シンポジウム in やまがた」への参画

令和4年度に本県を会場に開催される「第26回水シンポジウム in やまがた」（土木学会水工学委員会主催）の実行委員会に参画し、企画検討及び開催準備を進めている。

【期日】 令和4年7月21日（木）・22日（金）

【場所】 （1日目）山形テルサ、（2日目）視察箇所検討中

【メインテーマ】

未来へ引き継ぐ母なる最上川

～地球的視野に立ち流域全体で環境・文化・暮らしを守る～

【最上川フォーラムの役割と進捗状況】

- ① 第2分科会（水と地域づくりなどをテーマ）の運営
コーディネーター及びパネリストの選定について調整中
- ② 市民団体等による発表
発表団体の候補及び会場展示の内容について調整中
- ③ 実行委員会の事務局として会計経理

4 総会・運営委員会・部会

通常総会（7月6日） 運営委員会（5月31日、12月1日、3月25日）

合同部会（12月1日、3月25日）

委託事業・助成事業など

1 令和3年度 川～海をつなぐ「美しい元気な山形づくり」業務委託

（山形県循環型社会推進課）

委託料：3,471,000円

- ・スポGOMI大会開催
- ・海岸漂着物問題普及啓発出前講座の実施
- ・商業施設等での海岸漂着物問題普及啓発の実施

2 やまがた社会貢献基金「協働助成事業（テーマ希望型）」

テーマ名：テルス（株）川と海をつなぐ美しい元気な山形づくり事業

事業名：つながりたい！つながりたい！陸・川・海 未来の環境を作るのは私たち

海岸漂着物問題啓発プログラムづくり

助成額：450,000円

- ・プラスチックゴミの標本マップの作成
- ・海岸漂着物問題啓発資材（川海ゴミ・マイクロプラスチック標本、説明パネル等）の製作
- ・YouTubeでの啓発動画の作成
- ・海岸域と陸域をオンラインでつなぐゴミ拾いの実施

3 やまがた社会貢献事業「協働助成事業（一般）県政課題部門」

事業名：湧水の里魅力発信プロジェクトⅡ

助成額：346,289円

- ・「里の名水・やまがた百選」のうちの1か所のプロモーション動画作成
- ・参加型イベントを企画
- ・プロモーションイベントの開催

4 緑化推進事業（公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構）

助成額：95,000円

- ・桜の維持管理研修会の開催

5 運営体制整備事業費補助金（山形県）

補助金額：4,403,788円

- ・事務局長設置費

6 最上川上流水の巡回展（雨展）運営補助（国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所）

委託額：275,000円

7 最上川上流河川清掃活動（国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所）

委託額：400,452円

- ・最上川上流8か所での清掃活動

8 水環境保全助成事業（一般社団法人全国浄化槽団体連合会）

助成額：200,000円

- ・「身近な川や水辺の健康診断」の実施

9 寄付金（山形信用金庫）

寄付額：100,000円

10 海洋ごみバスターズ in 山形実行委員会 Change for the blue 委託事業

（株）テレビユー山形

委託額 363,000円

- ・スポGOMI 甲子園大会の運営
- ・海ゴミ啓発映画上映共催、映画上映の際の展示や啓発動画協力
- ・モンテディオ山形での啓発
- ・山形の海洋ごみを考える日共催実施

※敬称略